



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第20弾として、国土地理院の業務内容を、国土地理院基本図情報部地図情報技術開発室の石塚係長（入省4年目）より語ってもらいました！



石塚係長（入省4年目）

1. 国土地理院の業務の国土省における役割を教えてください。

国土地理院は、土地の測量及び地図の調製に関する施策を所掌しています。

具体的には、

『国土を測る』：日本の正確な位置の基準を定める

『国土を描く』：すべての地図の基礎となる地図を整備する

『国土を守る』：最新技術を活用して防災施策等を推進する

『国土を伝える』：災害の備えとなる防災地理情報等を提供する

という4つの役割を担っています。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

近年始まった先進的な施策としては、

■航空重力測量 ([https://www.gsi.go.jp/buturisokuchi/grageo\\_agsoverview.html](https://www.gsi.go.jp/buturisokuchi/grageo_agsoverview.html))

・GNSS(GPS)で正確な標高を測るために必要不可欠な重力の基準を構築するために、航空機から日本全国の重力分布を網羅的に測定する「航空重力測量」の取組

■地理院地図 Vector (<https://maps.gsi.go.jp/vector/>)

・従来の画像形式の地図に加え、利用者が目的別に色合いや表現をデザインすることができる「ベクトルタイル」形式の地図データの試験配信

などがあります。



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

基盤地図情報を整備するための技術開発を行う部署に所属しています。具体的には、自動車の通行軌跡データである ETC2.0 プローブ情報から新規開通道路の情報を抽出して迅速に地図に反映するための手法の開発・改良や、先進光学衛星の観測データを地図の更新に利用するための技術的検討を行っています。また、火山災害に対する防災業務として、航空機搭載合成開口レーダー（航空機 SAR）を活用した観測を行っています。航空機 SAR は航空機に搭載した機材から電波を照射して地形の状況を観測するレーダーであり、曇天や噴煙の下においても地表の状況を把握することができるため、火山観測に特に有効な技術です。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

現在の業務の目的は技術開発なので、大学院生と似たような進め方で仕事をすることがあります。先行研究や新技術について情報収集し、よりよい成果を求めて手法を試行錯誤する楽しみを経て、狙い通りに目的の成果が得られたときには達成感があります。作業の過程ではチームを組んで測量対象の地域に出張し測量機器を設置するなどの現地作業が必要になってくるのですが、現在は新型コロナウイルス感染症予防の観点から出張作業が中止になってしまっているため、情勢が落ち着いたらこれまでの分を取り返すため、忙しい日々を送ることになるかと思っています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土地理院の所掌は測量行政ですが、所属する職員は測量に限らない様々な学問的バックグラウンドと専門をもっており、毎日の日常会話が新たな発見に満ちています。学ぶ楽しみの中で仕事ができるため、行政と技術を両立したい方には興味を持って頂ける職場だと思います。国土地理院の採用情報は以下のホームページをご覧ください。

■国土地理院の採用情報ページ(<https://www.gsi.go.jp/GSI/RECRUIT/recr.html>)



国土地理院保有の航空機『くにかぜⅢ』と新型航空機 SAR